

令和4年度奥州市病院事業報告書

1 概況

(1) 総括事項

ア 病院事業全体としての状況

令和4年度の病院事業は、急性期医療から慢性期医療、在宅医療を提供し、各地域の医療ニーズに応えるべく医療機能の充実に努めてまいりました。市内においても第7波、第8波と感染が拡大した新型コロナウイルス感染症に対しては、感染症病床を有する総合水沢病院を中心に患者への治療はもとより、検査及びワクチン接種体制の整備を図り、医療局全体でその対応に当たりました。

医師数については、常勤医師は総合水沢病院において6月より1人増となったものの12月末で退職したため、年度末時点では前年度と同数となりました。一方で会計年度任用職員医師は2人減り、全体で前年度から2人減の24人となりました。依然として深刻な医師不足の状況が継続していることから、医師招へいや医師奨学生等の義務履行等の医師確保に力を注ぎ、医療提供体制の強化を図ると共に経営の健全・安定化を進める必要があります。

新市立病院建設については、再編統合案による新市立病院建設を含む次期奥州市立病院・診療所改革プランが前年度末に一旦白紙となったことから、改めて医療体制のあり方について検討してまいりました。市民が安心して生活していくために必要な医療提供体制を構築することができるよう、早急に市立医療機関の方向性を示すべく、引き続き検討を進めていきます。

経営状況については、入院患者数は27,909人（前年度比2,890人減）、外来患者数（訪問看護を除く。）は113,790人（前年度比22人増）となっており、一日当たりの平均患者数は入院で76.5人（前年度84.4人）、外来470.2人（前年度472.1人）となりました。一般病床利用率は36.1%で、前年度の39.8%から3.7ポイントの減となっています。

収益的収入及び支出（税抜）については、医業収益が2,738,843,557円、医業外収益が2,302,051,561円、訪問看護事業収益が62,373,092円、訪問看護事業外収益が17,663円、このほか特別利益が833,334円で、病院事業収益総計は5,104,119,207円となりました。

収益的収入のうち医業外収益は、前年度に引き続き、重点医療機関の指定を受けている総合水沢病院へ新型コロナウイルス感染症入院施設等確保事業費補助金が996,769,000円交付されたほか、各施設へ新型コロナウイルス感染症対応関連補助金が交付されていますが、一般会計繰入金の減などにより前年度に比し105,138,635円の減となりました。

支出については、医業費用が3,982,766,807円、医業外費用については158,217,008円、訪問看護事業費用が75,073,288円、このほか特別損失が2,947,061円で、病院事業費用総額は4,219,004,164円となりました。

この結果、医業収支で1,243,923,250円の損失、経常収支で887,228,770円の利益となり、特別損益を含めた病院事業収支における純損益は885,115,043円の利益となりました。

また、資本的収入及び支出(税込)については、収入は 221,750,000 円、支出は 320,003,180 円となり、収入が支出に対して不足する額は過年度分損益勘定留保資金で補てんしました。

イ 医療機関ごとの状況

(ア) 総合水沢病院

医師数は常勤医師が 6 月より 1 人増となったものの 12 月末に退職したため、年度末時点では前年度と同数の 10 人となりました。また、会計年度任用職員医師が 1 人減の 2 人となり、全体で 1 人減となっています。入院患者数は 14,677 人で前年度と比較して 2,777 人 (15.9%) の減となり、外来患者数(訪問看護を除く。)は 54,448 人で前年度と比較して 2,502 人 (4.8%) の増となりました。訪問看護は、利用者数が 5,856 人となっています。

収益的収入(税抜)については、医業収益が 1,685,978,343 円、医業外収益が 1,658,404,731 円、訪問看護事業収益が 54,402,745 円、訪問看護事業外収益が 4,408 円、このほか特別利益が 23,436 円で、収益総額は 3,398,813,663 円となりました。

収益的支出(税抜)においては、医業費用が 2,369,038,565 円、医業外費用が 94,363,025 円、訪問看護事業費用が 61,815,246 円、このほか特別損失が 1,359,974 円で、支出総額は 2,526,576,810 円となりました。

この結果、医業収支では 683,060,222 円の損失、経常収支では 873,573,391 円の利益となり、特別損益を含めた純損益では 872,236,853 円の純利益となりました。

(イ) まごころ病院

医師数は前年度と同数の常勤医師 8 人となっています。入院患者数は 11,805 人で前年度と比較して 143 人 (1.2%) の増となり、外来患者数(訪問看護を除く。)は 38,050 人で前年度と比較して 2,091 人 (5.2%) の減となりました。訪問看護は、利用者数が 1,324 人となっています。

収益的収入(税抜)については、医業収益が 738,856,054 円、医業外収益が 278,949,360 円、訪問看護事業収益が 7,970,347 円、訪問看護事業外収益が 13,255 円、このほか特別利益が 364,289 円で、収益総額は 1,026,153,305 円となりました。

収益的支出(税抜)においては、医業費用が 1,002,389,506 円、医業外費用が 35,549,100 円、訪問看護事業費用が 13,258,042 円、このほか特別損失が 1,207,846 円で、支出総額は 1,052,404,494 円となりました。

この結果、医業収支では 263,533,452 円の損失、経常収支では 25,407,632 円の損失となり、特別損益を含めた純損益では 26,251,189 円の純損失となりました。

(ウ) 前沢診療所

医師数は前年度と同数の常勤医師 1 人となっています。外来患者数(外来診療は平成 28 年 5 月より再開、訪問看護は令和 3 年 3 月末をもって休止。)は 7,435 人で前年度と比較し

て 131 人（1.8%）の増となりました。なお、入院については引き続き休止しています。

収益的収入（税抜）については、医業収益が 79,653,151 円、医業外収益が 125,038,234 円で、収益総額は 204,691,385 円となりました。

収益的支出（税抜）においては、医業費用が 172,891,134 円、医業外費用が 12,215,226 円、このほか特別損失が 361,519 円で、支出総額は 185,467,879 円となりました。

この結果、医業収支では 93,237,983 円の損失、経常収支では 19,585,025 円の利益となり、特別損益を含めた純損益では 19,223,506 円の純利益となりました。

（エ）衣川診療所

医師数は常勤医師が前年度と同数の 2 人、会計年度任用職員医師が 1 人減の 0 人となり、全体で 1 人減となっています。入院患者数は 1,427 人で前年度と比較して 256 人（15.2%）の減となり、外来患者数は 8,827 人で前年度と比較して 566 人（6.0%）の減となりました。

収益的収入（税抜）については、医業収益が 157,306,852 円、医業外収益が 158,706,876 円、このほか特別利益が 434,465 円で、収益総額は 316,448,193 円となりました。

収益的支出（税抜）においては、医業費用が 301,798,194 円、医業外費用が 11,999,225 円、このほか特別損失が 17,722 円で、支出総額は 313,815,141 円となりました。

この結果、医業収支では 144,491,342 円の損失、経常収支では 2,216,309 円の利益となり、特別損益を含めた純損益では 2,633,052 円の純利益となりました。

（オ）衣川歯科診療所

医師数は前年度と同数の常勤医師 1 人となっています。外来患者数は 5,030 人で前年度と比較して 46 人（0.9%）の増となりました。

収益的収入（税抜）については、医業収益が 56,503,585 円、医業外収益が 44,138,360 円、このほか特別利益が 11,144 円で、収益総額は 100,653,089 円となりました。

収益的支出（税抜）においては、医業費用が 81,299,715 円、医業外費用が 2,080,553 円で、支出総額は 83,380,268 円となりました。

この結果、医業収支では 24,796,130 円の損失、経常収支では 17,261,677 円の利益となり、特別損益を含めた純損益では 17,272,821 円の純利益となりました。

（2）経営指標に関する事項

令和 4 年度決算における経営成績について、経営の健全性を示す経常収支比率は、前年度比では減となったものの新型コロナウイルス感染症対応関連補助金が交付されたこと、手術件数の増加や新型コロナウイルス感染症患者の受診増により患者一人当たりの診療単価が上がり医業収入が増加したこと、退職給付費に係る負担金割合の大幅減に伴う給与費の減少などにより前年度比 5.3 ポイント増の 121.0%となり、前年度に引き続き健全経営の水準とされる 100%を上回りました。また、医業活動から生じる医業費用に対する医業収益の割合を示

す修正医業収支比率は前年度比 6.5 ポイント増の 63.4%となりましたが、100%を大きく下回り医業活動においては赤字となりました。

病院の施設が有効に活用されているかを示す病床利用率は前年度比 3.7 ポイント減の 36.1%となりました。医師不足による病床の休床や新型コロナウイルス感染症患者の病床確保のため空床としている病床数があることも影響していますが、病床利用率は下降傾向にあるため、適切な病床数を維持しながら利用率向上に向け引き続き医師確保に努めてまいります。

＜経営指標の推移＞

ア 経常収支比率【(経常収益／経常費用) ×100】

	R 4	R 3	R 2	R 1	H30
総合水沢病院	134.6%	129.8%	88.3%	88.3%	96.2%
まごころ病院	97.6%	92.7%	91.7%	93.6%	93.5%
前沢診療所	110.6%	102.0%	94.2%	103.5%	101.7%
衣川診療所	100.7%	95.3%	97.3%	94.3%	100.1%
衣川歯科診療所	120.7%	95.1%	102.5%	99.6%	108.3%
医療局全体	121.0%	115.7%	90.5%	91.0%	96.4%

イ 修正医業収支比率【(医業収益－他会計負担金) ／ (医業費用) ×100】

	R 4	R 3	R 2	R 1	H30
総合水沢病院	65.3%	56.3%	52.1%	62.9%	72.3%
まごころ病院	70.3%	68.8%	68.8%	72.6%	73.7%
前沢診療所	38.5%	33.4%	30.4%	29.2%	27.1%
衣川診療所	47.8%	47.8%	48.4%	50.4%	55.6%
衣川歯科診療所	54.3%	49.5%	51.7%	52.2%	55.8%
医療局全体	63.4%	56.9%	54.4%	61.8%	68.1%

ウ 病床利用率【(年延入院患者数／年延病床数) ×100】

	R 4	R 3	R 2	R 1	H30
総合水沢病院	27.7%	33.0%	35.9%	50.5%	69.8%
まごころ病院	67.4%	66.6%	64.7%	71.0%	80.4%
前沢診療所	(休床)	(休床)	(休床)	(休床)	(休床)
衣川診療所	20.6%	24.3%	22.8%	27.3%	31.0%
衣川歯科診療所	—	—	—	—	—
医療局全体	36.1%	39.8%	41.3%	53.0%	68.7%

※病床利用率は感染症病床を除く一般病床利用率を示す。